

学校教育目標	ふるさとを愛し、豊かな心を育み、自ら学び挑戦する東っ子	昨年度の評価概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の授業研究・改善の成果が、児童の意欲ある学びの姿に表れている。</li> <li>○基礎学力のさらなる定着に向けて、学年の発達段階に合わせた学習規律や自学・読書の推進など細部からのアプローチが図れるとよい。</li> <li>○人権教育推進の取組が少しずつ積み上がり心の育ちに生かされている。日常の学校生活の場でも、友達に思いやりのある言葉がけや気持ちのよい挨拶ができるよう根気よく指導を続けていきたい。</li> <li>○学校支援にたくさんのボランティアの方が関わっているが、長く関わってもらうためにも未発掘の部分に切り込む動きが必要である。</li> <li>○学運協委員と教職員や児童との熟議は、今後も継続していきたい。</li> </ul>	中期的目標	<p>&lt;中期的目標 (R7～R8)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の向上</li> <li>○児童の主体性を高める行事の工夫と連帯感・充実感を深める学級づくり</li> <li>○すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫</li> <li>○体験的学習、地域学習のさらなる充実</li> </ul>
--------	-----------------------------	----------	---	-------	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
(かんがえ) 学びの楽しさを知り、自ら学びに向かう態度の確立	「勉強の内容がよくわかる」児童の評価90%以上。「授業中、自分の考えをよく発表している」児童の評価70%以上。	「国語や算数の授業がよくわかる」児童の評価は92%で目標達成。対して「授業では自分の意見をよく発表している」児童の評価は63%で目標にしていた70%を下回った。	B	引き続き「わかる授業」に向けての授業改善に取り組む。特に、児童が積極的に自分の考えを発表する授業づくりの研究を進め実践を図る。  教師だけでなく、児童にとってもタブレットが有用であると実感できる実践と研究を進め、より児童の主体的な学びにつながるよう工夫していく。  次年度も道徳教育の研究指定を継続するので、グループでの交流や話し合いとともに、「読み解く力」を意識した授業づくりについても研究内容の共通理解を図り、実践につなげる。	・ICT活用は「調べる」「発表する」に終わらずに、思考を深める手段として「わかる」に力点を置く授業への転換としての活用も考える必要がある。 ・家庭学習の向上にも取り組み、授業では相手の意見や思いをしっかりと聞くグループ学習を取り入れながら、基礎基本の学習定着に取り組んでほしい。 ・わかる授業をめざすために、自分の考えを発表する場においてグループ討議やワークショップから熟議へと発展させ発表する場、協議する機会を授業に取り入れたい。 ・児童の「なぜ」「どうして」を大事にして、ICT活用だけでなく自ら辞書で調べる力もつけさせ、想像力を豊かにしてほしい。 ・読み解く力を向上させるには、児童のふだんの読書量を増やしたい。 ・タブレットが身近になっていることによる弊害については、対策をしっかり立ててほしい。
	「ICTを効果的に活用した授業に取り組んでいる」教員の割合100%。	「タブレットなどICT機器を活用して必要な情報を探したり発表したりできるように指導しましたか。」の教員の割合は88%であった。担任や授業を担当している教員に限ると100%なので、ほぼ目標を達成できたと言える。	A		
	「読み解く力」を意識した授業づくりに努め、グループ学習を効果的に実施し、交流を深める授業を仕組む。	「『読み解く力』の視点を意識した授業に努められましたか」の教員の割合は77%であった。グループ学習に積極的に取り組み、子どもの意見をつなぐ交流を意識した授業は多かったが、「読み解く力」の視点まで到達するのは難しかったようだ。	B		
(おもいやり) 自他を愛する豊かな心の醸成	「学校に来るのが楽しい」の児童評価及び保護者評価ともに85%以上。	「学校へ来ることが楽しい」の児童評価は88%(昨年比±0%)、「お父さんは、楽しく学校に通っている。」の保護者評価91%(昨年比-1%)で、昨年とほぼ同様の結果であった。	A	組織的に安心・安全な学校、温かい支持的な集団づくりをめざした取組を進める。また、一人ひとりの中に寄りそった丁寧な指導を継続する。  「安心ルール」「ばかばかの木」等の人権の取組は、児童が生活や自分自身を振り返るよい機会となっている。今後も、継続して定期的に取り組む。  組織的にいじめ未然防止を心がけ、早期発見・早期解決に全力で取り組む。こうした取組の一端や、学校いじめ防止基本方針を生徒指導だよりや校報等で定期的に継続して周知していく。	・自分のことを大切にできる児童は増えたと思うが、他者のことも互いに大切にできる心の育ちがあればなおよい。 ・児童の「学校へ来るのが楽しい」の評価88%はすばらしいが、残り12%の原因、究明、解決も重要である。また、なぜ学校に来るのが楽しいのかの追究は学校の環境をよくすることにたなる。 ・人権やいじめ問題は大人の目が届かない所でその種が存在しているので注意したい。 ・いじめの内容は複雑化しているが、引き続き組織的に丁寧な対応をお願いしたい。 ・あいさつ、マナー、ネットモラル等は家庭や地域と連携、継続した取組が必要である。 ・自分たちでルールを作る主体的な活動を取り入れることで、児童の主体性がより育つものと思われる。
	「児童が人権を尊重し、温かい人間関係を育成するよう努めましたか」の教員の割合80%以上。	「児童が人権を尊重し、温かい人間関係を育成するよう努めましたか」の教員の割合は96%で、児童の「友だちのことを考えて行動している」の評価95%にもつながったものとする。	A		
	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価80%以上。	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価は59%(前年比-2%)で、前年をやや下回った。「わからない」も37%(前年比+5%)で、「先生は、いじめやいやがらせがあったときは解決してくれる。」の評価95%とは乖離している。	B		
(たくましい) 体力や気力、生きる力の充実	「外で遊んだり、進んで運動したりしている」の児童評価80%以上。	「外で遊んだり、すすんで運動したりしている」の児童評価は82%で、目標は達成できた。	A	教員からの声掛けだけでなく、体育委員会や児童会からの外遊び推奨の取組も効果的であったので、引き続き教員からだけでなく児童からも発信していく。  児童にも保護者にも、ゲームやスマホの望ましい使い方も含めた規則正しい生活リズムの大切さについて学ぶ機会をもつ。  全校たてわり掃除や遊び、秋祭り等、異学年が交流する場を今後も引き続き設定するとともに、中学生や園児との交流も印象に残るものにしていく。	・外で遊ぶ児童が多いことはよいことだが、教室で本を読むなど運動嫌いな児童がいることも忘れずにほしい。 ・全校たてわり掃除がよい成果を出しているように感じるので、今後も引き続き行うとよい。 ・たてわり活動で異学年の交流する機会が増えることはよい。自然と体を動かす機会も増える。但し、上下間の問題も発生しやすいことには目を光らせておいてほしい。 ・生活リズムを整えるには、保護者と連携して健康に育つよう留意したい。特に、休み明けにリズムが崩れがちな児童が多いと思われるので、休み中の過ごし方について考えさせたい。
	「早寝・早起き・朝ごはんのリズムができてい」の児童評価及び保護者評価ともに80%以上。	児童の「早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができてい」の評価は82%(前年比+2%)で、保護者の「お父さんは、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができてい」は86%(前年比+9%)で、目標を達成できた。	A		
	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」児童の割合80%以上。	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」の児童評価は89%(前年比+2%)で、昨年を少し上回った。今年度から始めたたてわり掃除やたてわり遊び、児童会の秋祭り等の取組がよい結果をもたらしているとする。	A		
地域とともにある学校	学校・地域連携カリキュラムを見直し、はなまる広場や自治協との連携を図った実践を行う。	「学校地域連携カリキュラムが地域との連携・児童の主体的な学びにつながりましたか」の教員の割合は84%(前年比+7%)で評価が上がった。はなまる広場や自治協等と連携して取り組む機会が増えたことが要因であるとする。	A	はなまる広場や自治協等とともに進める教育活動は継続していき、さらに児童の主体的な学びや取組を生かすことができるよう工夫していく。また、地域連携の根拠となる学地域連携カリキュラムを学校内外に積極的に発信していく。  学校運営協議会では、引き続き学力向上・生徒指導等についても話題提供し、学校の課題を共有する。教職員や児童との熟議の場も設定し、協働で学校を運営していく機運をいっそう高めていく。	・日々の活動を通して地域の大人が児童にとって身近な存在になっていると感じる。気軽に声をかけてもらえる安心感がお互いにとって大きい。 ・家庭、学校、地域の密な連携は児童の健全な育成に重要であり、有効な組織のあり方である。 ・PTAが解散するので、学校、地域、保護者がどのように連携し、児童のよりよい学びを支えていくのか検討が必要である。 ・地域の力を学校に向け続けることができるように、学校での活動の様子などを積極的に地域に発信できるとよい。
	学校運営協議会の熟議を経た意見をもとに、全委員が執行者として学校運営にかかわりを持つようにする。	学校運営協議会では、教職員と「PTA解散後の学校と保護者、地域との望ましい連携について」をテーマに熟議したり、5年生児童と「こんな学校がいいなあ」をテーマに熟議したりした。いずれも次年度の学校教育活動に反映できるポイントを残すことができた。	A		
小中一貫教育の推進	小中一貫教育標準カリキュラムを活かした授業づくりについて、中学校区教職員全員で取組を進める。	小中一貫教育の日は、今津中学校区の全教職員が一室に会しグループ別に議論したり、研究を進めたりすることができた。また、小学校児童や中学校生徒の学習の様子などもお互いに参観することで学びの連続性について確認できた。	A	主に道徳科の授業づくりを通して、中学校へのつなぎを意識した指導内容を確認する。また、学習規律も中学校区で統一した上で授業改善を図る。  今後も、今津北小児童・今中陸上部と合同で小中連携しての陸上記録会練習や部活動体験、琵琶湖清掃活動や環境保全活動等を実施していく。	・小中や小中の連携は大切で、道徳教育の研究で行っているリレー道徳等の取組を通して各学校間の連携を今後も図れるとよい。 ・児童生徒の交流も大切だが、中1ギャップが起らないように中学の先生の出前授業などの工夫もできるとよい。 ・上学年の姿を見て下学年が憧れたり、将来をイメージできたりすることはとても大切なので、連携の継続と強化は不可欠である。
	学校・地域連携カリキュラムの実践の中で小中学校の児童生徒の交流の促進を図る。	小から中への滑らかな接続のために、方法や時期を工夫して、陸上記録会練習、中学校での部活体験や「ようこそ先輩」事業を行った。また、学校地域連携カリキュラムにある小中生合同の環境保全の取組も行うことができた。	A		

学校関係者評価	総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の雰囲気は大変よい。今の落ち着いた中で学級が今、何をやらなければならないのか、何をやりたいのかをしっかりと考え実行に移すとよい。</li> <li>・道徳教育の研究でめざした「自分事としてとらえて」ということさらに進め、日常生活の中でそれが行動としてあらわれることを期待する。</li> <li>・メディア、SNS等に対する指導を児童、保護者に定期的に継続して行うことを期待する。</li> <li>・PTAがなくなることで一部の保護者からの不安な声も聞く。今後、保護者とのようにして協力して学校運営をしていくのかをしっかりと考えてもらいたい。</li> <li>・先生や5年生と熟議できたことはいい機会になった。そこで出た意見を1つでも解決できるよう引き続き協議できるとよい。</li> <li>・学校と学校外が力を合わせて児童を見守っていききたい。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの効果的な活用についてはもう一歩進めて、思考を深める手段として十分な活用について研究を深め、児童の「わかる」につなげていきたい。但し、学習によっては従来通り手で調べたり書かせたりする機会も大切にしたい。</li> <li>・学校図書館を積極的に活用し、家読の推進など保護者とも連携しながら読書活動の充実を図り、児童の読書量を増やす。</li> <li>・いじめ等生徒指導事案については今まで通り生徒指導主任を中心に組織的に対応し、特にいじめについては早期発見と迅速な初期対応を心がける。このような学校の取組について、保護者や地域へも参観時等の機会を利用したり、HPやおたより等で今年度以上に周知したりする。</li> <li>・良い生活リズムの習慣化、ゲームやスマホ等の使用制限、外遊びや運動の推奨について、児童に加え保護者にも研修の機会を提供する。</li> <li>・PTA解散を踏まえて「はなまる広場」のいっそうの人材拡充、自治協との協働活動など、地域との連携推進をさらに進める。</li> <li>・中学校区での道徳教育の研究発表大会 (R8.10.23) に向けて、北小や中学校とともに研究を推進する。学習規律や授業の進め方等についても2校と連携しながら進める。</li> <li>・学運協と教職員や児童との熟議は継続して設定する。</li> </ul>

4段階評価 (A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)